

西洋史専攻分野

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 学期	曜日	講時	頁	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
西洋史特論Ⅰ	中世シチリアと地中海世界	2	高山 博	集中(1学期)			1	西洋中近世史特論
西洋史特論Ⅱ	西洋中世史料論	2	有光 秀行	1学期	金	3	2	西洋中近世史特論
西洋史特論Ⅲ	古典期アテナイの訴訟文化	2	佐藤 昇	集中(1学期)			3	古代地中海世界史特論
西洋史特論Ⅳ	冷戦の40年——「ヤルタからマルタへ」	2	浅岡 善治	2学期	水	3	4	欧米近現代史特論Ⅰ
比較文化史学特論Ⅰ	ソ連極東地域史研究	2	寺山 恭輔	2学期	金	2	5	ユーラシア文化史特論Ⅰ
西洋古代・中世史研究演習Ⅰ	中世ヨーロッパ史研究	2	有光 秀行	1学期	火	4	6	古代地中海世界史研究 演習Ⅰ
西洋古代・中世史研究演習Ⅱ	中世ヨーロッパ史研究	2	有光 秀行	2学期	火	4	7	古代地中海世界史研究 演習Ⅱ
西洋古代・中世史研究演習Ⅲ	ヨーロッパ中世史料研究	2	有光 秀行	1学期	水	4	8	西洋中近世史研究演習 Ⅲ
西洋古代・中世史研究演習Ⅳ	ヨーロッパ中世史料研究	2	有光 秀行	2学期	水	4	9	西洋中近世史研究演習 Ⅳ
西洋近現代史研究演習Ⅰ	欧米近現代史研究方法論	2	浅岡 善治	1学期	火	2	10	欧米近現代史研究演習 Ⅲ
西洋近現代史研究演習Ⅱ	欧米近現代史研究方法論	2	浅岡 善治	2学期	火	2	11	欧米近現代史研究演習 Ⅳ
比較文化史学研究演習Ⅰ	ソ連史文献研究Ⅰ	2	寺山 恭輔	1学期	金	4	12	ユーラシア文化史研究 演習Ⅰ
比較文化史学研究演習Ⅱ	ソ連史文献研究Ⅱ	2	寺山 恭輔	2学期	金	4	13	ユーラシア文化史研究 演習Ⅱ

科目名：西洋史特論 I / European and American History (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期集中 その他 連講

学期：集中(1 学期)， **単位数：**2

担当教員：高山 博（非常勤講師）

講義コード：LM98824, **科目ナンバリング：**LGH-HIS612J, **使用言語：**日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 西洋中近世史特論 】

1. 授業題目：

中世シチリアと地中海世界

2. Course Title (授業題目)：

Sicily and the Mediterranean in the Middle Ages

3. 授業の目的と概要：

中世地中海に関わる重要なテーマや研究史上の問題を検討することにより、多様な文化が接触・交流・衝突した中世地中海世界の特質と歴史の変容を学ぶ。

4. 学習の到達目標：

ヨーロッパ文化、イスラム文化、ギリシャ（ビザンツ）文化が交わる中世地中海世界の特徴を理解し、ヨーロッパ中心的な中世史像を相対化する視点を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション：歴史を学ぶ意味
2. ローマ帝国の遺産
3. ゲルマンと地中海
4. ビザンツ帝国と皇妃テオドラ
5. 地中海三大文化圏の比較：アラブ・イスラム、ギリシャ・ビザンツ、ラテン・ヨーロッパ
6. ノルマン・シチリア王国の成立と歴史家の視点
7. 中世シチリアの宮廷と王権
8. ドゥアーナ：近代行政組織の起源？
9. ファミリアーレス・レギスとは何か
10. 王国の権力構造
11. 中世シチリアの宗教的寛容
12. 中世シチリアにおける農民の階層区分
13. フリードリヒ二世の十字軍と「文明の衝突」
14. 地中海ネットワーク
15. 中世地中海世界から現代を見る

6. 成績評価方法：

筆記試験

7. 教科書および参考書：

教科書

本村凌二・高山博『地中海世界の歴史～古代から中世』放送大学教育振興会 2009 年

高山博『中世シチリア王国の研究～異文化が交差する地中海世界』東京大学出版会 2015 年

参考書

高山博『中世地中海世界とシチリア王国』東京大学出版会 1993 年

高山博『神秘の中世王国～ヨーロッパ、ビザンツ、イスラム文化の十字路』東京大学出版 1995 年

高山博『中世シチリア王国』講談社現代新書 1999 年

高山博『歴史学：未来へのまなざし』山川出版社 2002 年

高山博『文明共存の道を求めて』日本放送出版協会 2003 年

高山博『ヨーロッパとイスラーム世界』山川出版社 2007 年

D. Abulafia, ed., Italy in the Central Middle Ages 1000-1300, Oxford University Press, 2004

H. Takayama, The Administration of the Norman Kingdom of Sicily, Leiden, E. J. Brill, 1993

H. Takayama, Sicily and the Mediterranean in the Middle Ages, Abingdon, Routledge, 2019

8. 授業時間外学習：

なるべく教科書・参考書を読んできて欲しい。

9. その他：なし

科目名：西洋史特論Ⅱ／ European and American History (Advanced Lecture) II

曜日・講時：前期 金曜日 3 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：有光 秀行（教授）

講義コード：LM15305， 科目ナンバリング：LGH-HIS613J， 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 西洋中近世史特論 】

1. 授業題目：

西洋中世史料論

2. Course Title (授業題目)：

Sources of Medieval History

3. 授業の目的と概要：

西洋中世史料の類型とその特徴を講義する。

4. 学習の到達目標：

西洋中世の史料の類型とその特徴について理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：イントロダクション

第2回：厳密な意味での叙述史料（1）キリスト教起源のもの

第3回：厳密な意味での叙述史料（2）古代歴史叙述起源のもの

第4回：厳密な意味での叙述史料（3）中世起源のもの

第5回：厳密な意味での叙述史料（4）聖人伝

第6回：書簡

第7回：論文

第8回：証書（1）証書一般

第9回：証書（2）特殊な証書

第10回：証書から派生する史料

第11回：所領に関する史料

第12回：財政史料

第13回：人のリスト

第14回：その他の史料

第15回：授業のまとめ

定期試験 おこなわない

6. 成績評価方法：

授業参加状況（コメントペーパーによる）（50%）と学期末レポート（50%）

7. 教科書および参考書：

R. C. van Caenegem, Introduction aux sources de l'histoire medieval, 1997.

高山博・池上俊一編『西洋中世学入門』、東京大学出版会、2005。

8. 授業時間外学習：

プリントを配布するので、その予習・復習をきちんとおこなうこと。

9. その他：なし

科目名：西洋史特論Ⅲ／ European and American History (Advanced Lecture) III

曜日・講時：前期集中 その他 連講

学期：集中(1学期)， **単位数：**2

担当教員：佐藤 昇（非常勤講師）

講義コード：LM98825， **科目ナンバリング：**LGH-HIS614J， **使用言語：**日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名： 古代地中海世界史特論 】

1. 授業題目：

古典期アテナイの訴訟文化

2. Course Title (授業題目)：

The Litigation Culture in Classical Athens

3. 授業の目的と概要：

前5世紀末から前4世紀にかけて目覚ましい発展を見せたアテナイの裁判制度は、民主政治の根幹をなすものであった。研究史上、制度の分析は精緻を極めたが、他方、運用面については未だ検討の余地が大きい。本講義では、当時のアテナイ市民によって訴訟がいかに運用されていたのか、とりわけ司法の利用、法定外紛争解決、法廷における裁判員説得法（レトリック）といった観点から分析を加えることで、特に古典期アテナイの訴訟文化の特性を明らかにしてゆく。

4. 学習の到達目標：

- ① 民主政期アテナイの司法について基礎的な知識を身につける。
- ② 司法制度・訴訟文化を資料に基づいて多角的な視点から論理的・批判的に考察する能力を養う。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

講義は以下の通りに進める予定でいるが、受講者の理解度などに応じて変更する可能性がある：

- ① 古典期アテナイの裁判制度を考える意義と分析の視角
- ② 制度と原則(1)：古典期アテナイの司法制度発展史
- ③ 制度と原則(2)：提訴から法廷へ
- ④ 制度と原則(3)：裁判員制度の「アマチュアリズム」
- ⑤ 司法の利用(1)：提訴、仲裁、和解
- ⑥ 司法の利用(2)：社会的布置と裁判戦略
- ⑦ 司法の利用(3)：牛歩戦術の発達と狙い
- ⑧ 司法の利用(4)：裏取引と公訴取下
- ⑨ 演説と場(1)：野次の効用
- ⑩ 演説と場(2)：野次の抑制
- ⑪ 演説と場(3)：野次馬の意義
- ⑫ 証明の作法(1)：法文と立法意図
- ⑬ 証明の作法(2)：法文の修辭的引用
- ⑭ 証明の作法(3)：証言の利用
- ⑮ 総括

6. 成績評価方法：

筆記試験を行い、その成績に基づいて評価する。

7. 教科書および参考書：

特定の教科書は使用しない。参考文献は授業の進行に合わせて随時紹介する。橋場弦（2016年）『民主主義の源流 古代アテナの実験』（講談社学術文庫）が本講義の前提を理解するために、大変有用な文献である。

8. 授業時間外学習：

上記の文献を事前に読んでおくと、授業理解の助けになる。授業後には配布資料をもとに復習を行うこと。また授業時に紹介した参考文献を積極的に繙き、知識を深めること。

9. その他：なし

科目名：西洋史特論Ⅳ／ European and American History (Advanced Lecture) Ⅳ

曜日・講時：後期 水曜日 3 講時

学期：2 学期， **単位数：**2

担当教員：浅岡 善治（准教授）

講義コード：LM23305， **科目ナンバリング：**LGH-HIS615J， **使用言語：**日本語

【（平成 30 年度以前入学者）対応科目名： 欧米近現代史特論Ⅰ 】

1. 授業題目：

冷戦の 40 年——「ヤルタからマルタへ」

2. Course Title（授業題目）：

The Forty Years' Cold War: From Yalta to Malta

3. 授業の目的と概要：

今から 30 年前の 1989 年末、地中海のマルタでジョージ・H・W・ブッシュ米大統領とミハイル・ゴルバチョフソ連最高会議長が会談し、「冷戦の終結」を宣言した。しかしこの歴史的な声明も、ソ連解体をはじめとするさらなる激動の波に直ちに飲み込まれ、「冷戦の崩壊」なる奇妙な表現の一定の広がりとともに、20 世紀世界史の中に埋没しつつある。

他方で、冷戦期に関する歴史的研究は近年進捗が著しい。本講義では、それらの成果をもとに、20 世紀後半の世界を覆った「冷戦」の展開過程をおよそ時系列で再検討する。

4. 学習の到達目標：

(1) 「東西冷戦」の視座から、20 世紀後半の欧米各国史および国際関係史の概要を把握する。

(2) 近現代史の知見を基に、現代の諸事象を「歴史的に」捉える思考様式を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス——本講義の趣旨と進め方について

2. 二度目の世界戦争と「大連合」

3. ヤルタ、ポツダムと戦後秩序の模索

4. 東西対立の構造化（1）

5. 東西対立の構造化（2）

6. アジアの「熱戦」

7. 平和共存と宇宙開発競争

8. 世界戦争の危機

9. デタントと多極化

10. ベトナムとアフガニスタン

11. 「新冷戦」の到来？

12. 改革と革命（1）

13. 改革と革命（2）

14. 冷戦の終結と「崩壊」

15. 総括と展望

6. 成績評価方法：

筆記試験を行い、その成績に基づいて評価する。

7. 教科書および参考書：

特定の教科書は使用しない。参考文献は授業の進行に合わせて随時紹介する。さしあたり包括的なものとして、アーチャー・ブラウン『共産主義の興亡』下斗米伸夫監訳、中央公論新社、2012 年；佐々木卓也『冷戦——アメリカの民主主義的生活様式を守る戦い』有斐閣、2011 年、の 2 著を挙げておく。

8. 授業時間外学習：

「特論」でありながらも内容は平易を旨とするが、受講者が何らかの事由により本来備えるべき基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主體的な努力が求められる。

9. その他：なし

科目名：比較文化史学特論 I / Comparative Studies of Cultural History (Advanced Lecture) I

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

学期：2 学期， 単位数：2

担当教員：寺山 恭輔（教授）

講義コード：LM25205， 科目ナンバリング：LGH-HIS616J， 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： ユーラシア文化史特論 I 】

1. 授業題目：

ソ連極東地域史研究

2. Course Title (授業題目)：

History of Soviet Far East

3. 授業の目的と概要：

ロシア大統領ウラジーミル・プーチンは 2000 年、極東連邦管区を導入した。ロシア連邦の 8 つの連邦管区の一つである本管区と大統領全権代表の派遣は、ロシア帝国最後の 30 年（1884－1917）にわたってアムール総督によって統治されたアムール総督府を想起させる。本講義は、このアムール総督府の領域とほぼ同じ領域を有するソ連極東地方の、1917 年のロシア革命から第二次大戦末までのスターリン時代の歴史に焦点をあてる。

4. 学習の到達目標：

1. ロシア極東地域の形成過程を理解する。
2. ロシア革命後、1920 年代から 1930 年代のスターリン時代のロシア極東地域の発展過程を理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ロシア極東とは イントロダクション
2. ブリアムール総督府と極東統治策
3. 日露戦争、ロシア革命、シベリア出兵とロシア極東
4. 極東共和国とその併合によるソ連の形成
5. 政治局決定にみる 1920 年代ソ連の対極東政策
6. クビャク、ガマルニクと 1920 年代末の本格的なソ連極東政策の形成
7. 満州事変とスターリン
8. 国防拠点としてのソ連極東政策
9. 鉄道輸送とソ連極東への動員策
10. 極東地方党委員会の活動
11. ダリストロイと囚人労働
12. 国境紛争
13. 独ソ戦争時のソ連極東
14. 対日参戦と北方領土問題
15. 総括

6. 成績評価方法：

レポート 50%、出席 50%

7. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、授業の中で適宜、参考文献を紹介する。

8. 授業時間外学習：

紹介する参考文献を読んでくること。

9. その他：なし

オフィスアワー 金曜日 16：00－17：00

科目名：西洋古代・中世史研究演習Ⅰ／History of Ancient and Medieval Europe(Advanced Seminar)Ⅰ

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：有光 秀行（教授）

講義コード：LM12406， 科目ナンバリング：LGH-HIS617J， 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 古代地中海世界史研究演習Ⅰ】

1. 授業題目：

中世ヨーロッパ史研究

2. Course Title (授業題目)：

Study in the Medieval European History

3. 授業の目的と概要：

歴史学の文献の読解力を養うとともに、研究の最前線に関する知見を深めることが目的です。教室における文献の読解・検討と、レポート作成を、2つの柱とします。

4. 学習の到達目標：

さまざまな文献の読解力を獲得するとともに、学界での研究の諸動向を理解し、修士論文・修士研究作成にそなえる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

通常の授業時間は、フランス語のテキストを、分担箇所を決めて読みます。事前に担当者が作成した訳文に目を通した上で、授業に臨んでもらいます。第一回目は打ち合わせ。以後は訳読と質疑応答。1 ページを 2 回で読む予定です。また学期末には、西洋史に関し、各人が興味を持つテーマを自ら設定して、それに関連する論文を読みまとめたレポートを提出してもらいます。作成上の指導は随時おこないます。

6. 成績評価方法：

授業参加状況（50%）とレポート（50%）。

7. 教科書および参考書：

Yann COZ, ‘L’ histoire antique à l’ époque anglo-saxonne tardive, L’ Historiographie médiévale normande et ses sources antiques (Xe-XIIe siècle), dir. Pierre Bauduin et Marie-Agnès Lucas-Avenel, Caen, 2014.

8. 授業時間外学習：

毎回読むフランス語テキストの予習・復習をおこなうこと。およびレポート作成のための文献探索・読解を随時おこなうこと。

9. その他：なし

科目名：西洋古代・中世史研究演習Ⅱ／History of Ancient and Medieval Europe(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

学期：2 学期， 単位数：2

担当教員：有光 秀行（教授）

講義コード：LM22405， 科目ナンバリング：LGH-HIS618J， 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 古代地中海世界史研究演習Ⅱ】

1. 授業題目：

中世ヨーロッパ史研究

2. Course Title (授業題目)：

Study in the Medieval European History

3. 授業の目的と概要：

歴史学の文献の読解力を養うとともに、研究の最前線に関する知見を深めることが目的です。教室における文献の読解・検討と、レポート作成を、2つの柱とします。

4. 学習の到達目標：

さまざまな文献の読解力を獲得するとともに、学界での研究の諸動向を理解し、修士論文・修士研究作成にそなえる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

通常の授業時間は、フランス語のテキストを、分担箇所を決めて読みます(研究演習Ⅰの続き)。事前に担当者が作成した訳文に目を通した上で、授業に臨んでもらいます。第一回目から訳読と質疑応答。1 ページを 2 回で読む予定です。また学期末には、西洋史に関し、各人が興味を持つテーマを自ら設定して、それに関連する論文を読みまとめたレポートを提出してもらいます。作成上の指導は随時おこないます。

6. 成績評価方法：

授業参加状況 (50%) とレポート (50%)。

7. 教科書および参考書：

Yann COZ, 'L' histoire antique à l' époque anglo-saxonne tardive, L' Historiographie médiévale normande et ses sources antiques (Xe-XIIe siècle), dir. Pierre Bauduin et Marie-Agnès Lucas-Avenel, Caen, 2014.

8. 授業時間外学習：

毎回読むフランス語テキストの予習・復習をおこなうこと。およびレポート作成のための文献探索・読解を随時おこなうこと。

9. その他：なし

科目名：西洋古代・中世史研究演習Ⅲ／History of Ancient and Medieval Europe(Advanced Seminar) III

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：有光 秀行（教授）

講義コード：LM13405， 科目ナンバリング：LGH-HIS619J， 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 西洋中近世史研究演習Ⅲ 】

1. 授業題目：

ヨーロッパ中世史料研究

2. Course Title (授業題目)：

Study in the Sources of Medieval European History

3. 授業の目的と概要：

中世ラテン語史料の読解力を涵養することを目的とします。中世ラテン語史料を訳読し検討します。

4. 学習の到達目標：

中世ラテン語史料の高度な読解力を涵養する。また、中世盛期の知的世界を理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

中世ラテン語史料のうち、叙述史料をとりあげて、文法・文脈両面より検討しながら叙述の流れに沿って訳読し、理解します。進度は参加者全員が理解しながらすすめるように配慮します。

Ralph of Coggeshall の年代記を 1177 年の項目 (p. 19) から読みます。第一回目はイントロダクション、二回目以降は毎回 1 ページずつ、p. 32 まで読む予定です。

6. 成績評価方法：

授業参加状況

7. 教科書および参考書：

Radulphi de Coggeshall Chronicon Anglicanum, ed. J. Stevenson, Rolls Series 66, 1875.

8. 授業時間外学習：

所定の箇所のラテン語原文を、教室で日本語に訳せるよう、必ず予習すること。読解上の疑問点などもまとめておくこと。特に予習で不明だった箇所を中心に、復習を必ずおこなうこと。

9. その他：なし

科目名：西洋古代・中世史研究演習Ⅳ／ History of Ancient and Medieval Europe(Advanced Semina) Ⅳ

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

学期：2 学期， 単位数：2

担当教員：有光 秀行（教授）

講義コード：LM23404， 科目ナンバリング：LGH-HIS620J， 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 西洋中近世史研究演習Ⅳ 】

1. 授業題目：

ヨーロッパ中世史料研究

2. Course Title (授業題目)：

Study in the Sources of Medieval European History

3. 授業の目的と概要：

中世ラテン語史料の読解力を涵養することを目的とします。中世ラテン語史料を訳読し検討します。

4. 学習の到達目標：

中世ラテン語史料の高度な読解力を涵養する。また、中世盛期の知的世界を理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

中世ラテン語史料のうち、叙述史料をとりあげて、文法・文脈両面より検討しながら叙述の流れに沿って訳読し、理解します。進度は参加者全員が理解しながらすすめるように配慮します。

Ralph of Coggeshall の年代記を p. 33 から読みます。第一回目以降毎回 1 ページずつ、p. 47 まで読む予定です。

6. 成績評価方法：

授業参加状況

7. 教科書および参考書：

Radulphi de Coggeshall Chronicon Anglicanum, ed. J. Stevenson, Rolls Series 66, 1875.

8. 授業時間外学習：

所定の箇所のラテン語原文を、教室で日本語に訳せるよう、必ず予習すること。読解上の疑問点などもまとめておくこと。特に予習で不明だった箇所を中心に、復習を必ずおこなうこと。

9. その他：なし

科目名：西洋近現代史研究演習Ⅰ／History of Modern Europe and America(Advanced Seminar)Ⅰ

曜日・講時：前期 火曜日 2講時

学期：1学期，単位数：2

担当教員：浅岡 善治（准教授）

講義コード：LM12209，科目ナンバリング：LGH-HIS621J，使用言語：日本語

【（平成30年度以前入学者）対応科目名：欧米近現代史研究演習Ⅲ】

1. 授業題目：

欧米近現代史研究方法論

2. Course Title（授業題目）：

History of Modern Europe and America(Advanced Seminar)Ⅲ

3. 授業の目的と概要：

欧米近現代史に関する古典的著作ないし同時代文献を精読し、その内容について討論を行い、理解を深める。

4. 学習の到達目標：

(1)テキストの内在的な理解による論旨の厳密な把握、(2)文献読解と討論を通じた研究能力・プレゼンテーション能力の向上。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. テキストの検討・討論(1)a
3. テキストの検討・討論(1)b
4. テキストの検討・討論(1)c
5. テキストの検討・討論(1)d
6. テキストの検討・討論(1)e
7. 小括(1)
8. テキストの検討・討論(2)a
9. テキストの検討・討論(2)b
10. テキストの検討・討論(2)c
11. テキストの検討・討論(2)d
12. テキストの検討・討論(2)e
13. 小括(2)
14. 中間的総括に向けての課題の整理
15. 中間的総括

6. 成績評価方法：

出席30% その他(受講態度、課題の達成度など)70%

7. 教科書および参考書：

テキストは開講後発表。その他、授業の進行に合わせて適宜指示する。

8. 授業時間外学習：

ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。

9. その他：なし

面談等は随時。事前にメール等でアポイントを取ることが望ましい。

研究室：文学研究科5F・539 E-mail: asaoka@m.tohoku.ac.jp

科目名：西洋近現代史研究演習Ⅱ／ History of Modern Europe and America(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

学期：2学期， 単位数：2

担当教員：浅岡 善治（准教授）

講義コード：LM22210， 科目ナンバリング：LGH-HIS622J， 使用言語：日本語

【（平成30年度以前入学者）対応科目名： 欧米近現代史研究演習Ⅳ 】

1. 授業題目：

欧米近現代史研究方法論

2. Course Title（授業題目）：

History of Modern Europe and America(Advanced Seminar)Ⅳ

3. 授業の目的と概要：

欧米近現代史に関する古典的著作ないし同時代文献を精読し、その内容について討論を行い、理解を深める。

4. 学習の到達目標：

(1)テキストの内在的な理解による論旨の厳密な把握、(2)文献読解と討論を通じた研究能力・プレゼンテーション能力の向上。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. テキストの検討・討論(3)a
3. テキストの検討・討論(3)b
4. テキストの検討・討論(3)c
5. テキストの検討・討論(3)d
6. テキストの検討・討論(3)e
7. 小括(3)
8. テキストの検討・討論(4)a
9. テキストの検討・討論(4)b
10. テキストの検討・討論(4)c
11. テキストの検討・討論(4)d
12. テキストの検討・討論(4)e
13. 小括(4)
14. 中間的総括(2)
15. 総括

6. 成績評価方法：

出席30% その他(受講態度、課題の達成度など)70%

7. 教科書および参考書：

テキストは開講後発表。その他、授業の進行に合わせて適宜指示する。

8. 授業時間外学習：

ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。

9. その他：なし

面談等は随時。事前にメール等でアポイントを取ることが望ましい。

研究室：文学研究科5F・539 E-mail: asaoka@m.tohoku.ac.jp

科目名：比較文化史学研究演習Ⅰ／Comparative Studies of Cultural History(Advanced Seminar)Ⅰ

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：寺山 恭輔（教授）

講義コード：LM15402， 科目ナンバリング：LGH-HIS623J， 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： ユーラシア文化史研究演習Ⅰ】

1. 授業題目：

ソ連史文献研究Ⅰ

2. Course Title (授業題目)：

Reading texts of Russian and Soviet History Ⅰ

3. 授業の目的と概要：

ロシア・ソ連史に関するロシア語及び英語文献を読むことでロシア語及び英語の解読能力の向上をはかる。受講者が交代で、自分の研究分野に関する論文の要旨を発表し、それに関して出席者全員で議論する形で授業を進める。受講生のロシア語読解力のレベルに応じて、適宜テキストを選択する。

4. 学習の到達目標：

- ①. 研究文献を読むことにより、ロシア・ソ連史を研究するために必要なロシア語及び英語の読解力を高める。
- ②. 参考文献の探し方、引用の方法も同時に学ぶ。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

担当となる受講者は、事前に自分の関心のあるテーマに関するロシア語または英語の論文を選び、受講者全員に配布するとともに、発表当日には要旨をまとめて参加者の人数分配布し、発表すること。以下、毎週同じ。

6. 成績評価方法：

授業への出席（50％）と報告の内容（50％）によって判定する。

7. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。

8. 授業時間外学習：

発表の担当でない受講者も、事前に配布される論文を読み、議論に参加すること。

9. その他：なし

オフィスアワー 金曜日 16：00－17：00

事前にメールや電話で連絡しておくこと。

科目名：比較文化史学研究演習Ⅱ／ Comparative Studies of Cultural History(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時

学期：2 学期， 単位数：2

担当教員：寺山 恭輔（教授）

講義コード：LM25402， 科目ナンバリング：LGH-HIS624J， 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： ユーラシア文化史研究演習Ⅱ 】

1. 授業題目：

ソ連史文献研究 Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：

Reading text of Russian and Soviet History Ⅱ

3. 授業の目的と概要：

前期と同じ

4. 学習の到達目標：

前期と同じ

5. 授業の内容・方法と進度予定：

前期と同じ

6. 成績評価方法：

前期と同じ

7. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。

8. 授業時間外学習：

発表の担当でない受講者も、事前に配布される論文を読み、議論に参加すること。

9. その他：なし

オフィスアワー 金曜日 16：00－17：00

事前にメールや電話で連絡しておくこと。